

第1 日時

令和4年(2022年)3月15日(火曜日) 午後2時30分から午後3時35分まで

第2 場所

彦根市役所2階 2-1会議室

第3 出席者等

1 委員

曹 美花委員、王進超委員、NGUYEN QUANG VU委員、井嶋 タイス委員

2 事務局

人権政策課 村田課長、佐伯多文化共生係長、奥村主任通訳

3 傍聴者・報道関係者

なし

第4 内容(●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言)

《説明》彦根市の現状メールについて

コミュニケーション支援として通訳の配置、翻訳機等の活用
多言語版の広報ひこねや生活ガイド、ごみカレンダーの作成
多文化共生サポーターの設置

ひこね外国人相談センターの開設(2か所)

開設のお知らせを外国人住民のいる全世帯へ郵送(2,007通)

相談件数(2月末まで)：元町 3,296件、中央町153件

うち、オペレーター通訳：ベトナム語18件、ポルトガル語2件、タガログ語1件

防災メールの多言語化

開始日：令和3年8月1日

対応言語：ポルトガル語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語

登録者数：158件

《意見交換》（●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言）

・労働について

○多言語でいろんな情報を出してくれてとても助かる。外国人住民はとてうれしいと思う。

○外国人相談センターのビデオ通訳実績について、相談する内容はどんなものか。仕事のことは相談に来ているか。

●ワクチンパスポートについてのもや、給付金について自分にはもらえるのか教えてほしいという方が来られている。ニュースなどを見て心配しているが、特に仕事についての相談は受けていない。

○周りは仕事を探したいと思っているが、どういうところで探したらいいのかわからない。

○ハローワークを利用する人もいるが、友達で紹介などで探す人が多いように思う。通訳がいないと求人票を読むことも相談もできない。通訳がいたら、利用する人も増えるのかもしれない。

○就職が難しい。言葉ができないのも難しい問題。面接に行ってもうまくいかないことも多い。給付金をもらっても一時的なものなのでそれよりは仕事につながる方がいい。帰りたくても帰れない人もいる。

○給付金やワクチンについても日本語のみで書かれていたりするとわからないことも多い。

○労働に関する基本的なこと、有休は何日もらえるか、最低賃金はいくらとかあまりわからない。全部訳すのは難しいと思うが、基本的なことだけでも訳してもらえると助かる。

●確かに、FACEBOOKで労働などに関する情報を発信すると閲覧数が増えるので、必要な情報だとわかる。そういう情報をもっと発信していきたいと思う。

○はっきりわかっていないと知らずに違反してしまうこともあると思うので、教えてほしい。

・防災について

○防災メールの登録を増やすには、窓口に来た人に登録をしてもらったら増えるのではないかと。

○登録していない人が結構周りにはいるため、受信したものをコミュニティで共有するようにしている。

●通訳対応する際には、登録の手続きを手伝うなどしているが、登録数は伸びていない。家族で誰かが登録している、コミュニティの中で受信したメールを共有する、などもあるとは思いますが、緊急時の受信がダイレクトにできない分、時差が生じるのであるべくここに登録をしてほしいと思っている。

○登録はしたいけど、メールをあまり使わないので、登録の仕方がわからない、という人もいます。だから、コミュニティのFACEBOOKで共有するようにしている。日本語がわからなくて困っている人もいます。

●コミュニティごとにつながりがあると聞いているので、うまくつながりたいと思う。

・子育てについて

○子育てに関する事でわからないことがある。自分の周りではまだ子どもがいる人が少ないが、今後増えてくると思うので、今後情報が得られるようになると助かる。

○母国とは制度が違うので、少しずつは慣れるが、問題を抱える人もいる。最近、単身で来る人より家族と一緒に来る人が多い。

○自分たちのコミュニティではお互い教えあうことができているが、必要なサポートだと思う。

○勉強以外の情報もわかるとありがたい。日本人の子どもが体験することを同じようにいろいろ一緒に体験できるように情報を得たい。

○ポルトガル語の母語教室があると聞いたが、子どもが増えてきたときにはベトナム語や中国語もあるといいと思う。

●自分のルーツを大事にしてほしいと思うので、母語教室をしている。

○日本で育つ中で母国語を忘れていく。これはよくないと思うが、両親が日本語を理解できると子どもも家で日本語を話すので、母語を使わなくなってしまう。

○日本で暮らす場合は日本語が一番でないと難しいと思う。母語は無理に教えなくても日常の中で学ぶこともできる。でも、使い分けるのは子どもには難しいと思う。

○市には場所提供だけでもしてもらえるといい。